生涯スポーツの祭典

第 26 回庄原市スポーツフェスティバル・7/17　No.2

だれもがスポーツに親しみ、健康づくり・体力づくりをはじめ、互いの交流を深めることを目的とした生涯スポーツの祭典「庄原市スポーツフェスティバル」が６月25 日から7 月24 日まで開催されました。本年で26 回目となる本大会は、毎年多くの市民が参加する市の一大イベントとして定着しています。

７月17 日、庄原市総合体育館で「総合開会式」が行われ、選手を代表して、ソフトボールファストピッチに出場するスイス村所属若林輝則（あきのり）さんが力強く選手宣誓をしました。市民約2,000 人が参加し、約１カ月にわたり、市内の各会場で20 種目の競技や体験教室などが実施され、選手の皆さんはさわやかな汗を流しました。

▲各種目の選手が一堂に会し総合開会式が行われた

子どもから大人までひとつに

たなばたまつり・7/6　No.1

比和自治振興センターで、たなばたまつり実行委員会と庄原市社会福祉協議会北部地域事務所比和地域センターの主催による、比和まるごと家族「たなばたまつり」が開催されました。この日を楽しみにしていた子どもから大人まで約180 人が参加し、さまざまなステージ発表も行われました。

市役所比和支所の職員による、比婆山神話をモチーフにした寸劇では、これまで、いざなぎ・いざなみの名前は聞いたことがあっても、内容までは知らなかったという方も多くいたようで、参加者は真剣な表情で観劇していました。

▲比婆山神話をモチーフにした寸劇

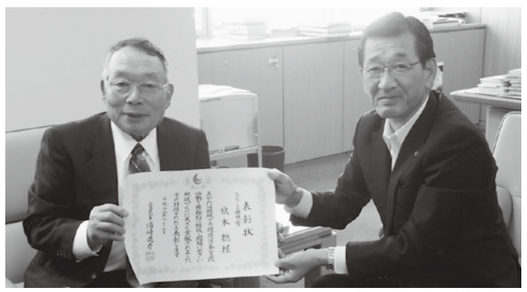
環境にやさしい地域づくり

ひろしま環境賞受賞を市長へ報告・6/10　No.4

市長室で、西城町の槇本聰（まきもとさとし）さんがひろしま環境賞受賞の報告をしました。

ひろしま環境賞は、地域の環境保全に関して、先覚的または独創的な活動などを行い、環境にやさしい地域づくりに顕著な功績のあった個人または団体に対して、その功績を称え知事表彰を行うものです。槇本さんは、長年、公衆衛生推進委員を勤め、平成８年４月から現在まで、西城地区で実践している河川美化、空き容器など散乱ごみの追放活動、広島県アダプト活動認定団体としての国道 183 号の歩道清掃、不法投棄防止活動など、多くの環境保全活動を行っています。

木山耕三市長は、「今後も継続して環境保全について尽力してもらいたい」と激励の言葉を送りました。


▲木山耕三市長へ報告する槇本さん

里山の資源を活用して

韓国からエコストーブなどを視察・6/23　No.3

韓国生活協同組合の職員15 人が、総領町在住の和田芳治（わだよしはる）さん宅を訪問し、書籍「里山資本主義」の中で事例紹介されたエコストーブなどを視察しました。

この書籍では、廃材のペール缶を使い裏山の雑木などを燃料とする、熱効率が高く環境にも優しいエコストーブを作成して、それでご飯を炊くという、和田さんたちの取り組みが紹介されています。昨年、韓国でもこの書籍が翻訳されたことにより、韓国の方がこの取り組みに興味を持ち、今回の視察が実現しました。

参加者は、エコストーブで炊いたご飯や、地元の食材を使った日本の郷土料理を満喫し、「韓国でも和田さんのように、里山に眠る資源を活用した田舎暮らしを実践できる人が増えれば良いと思う」と話していました。

▲エコストーブについて説明する和田さん

庄原暮らしお試し体験施設で

「くちわの家」ほたるの夕べ・6/25　No.5

口和自治振興区産業振興部主催による「ほたるの夕べ」が「くちわの家」で開催され、約40 人が参加しました。

「くちわの家」は庄原市内への定住促進を目指し、庄原暮らしお試し体験施設として市外在住U・Iターン希望者に貸し出す施設で、元々木材商であった立派な古民家を改修して整備されました。今回のイベントは、「くちわの家」を地域内外へPR し、利用者の促進を図ることを目的として開催されました。

当日は、移住希望者などへの空き家情報コーナーだけでなく、カフェや口和町金田の兒玉ファミリーによるコンサートで参加者をもてなしていました。

▲コンサート風景

清流沿いをウォーキング

帝釈峡ウォーク・7/17　No.6

国定公園帝釈峡で、「帝釈峡ウォーク」が開催されました。心配されていた天気も回復し、参加者は「かわせみコース（約５キロメートル）」と、「はんざきコース（約９キロメートル）」に分かれてウォーキングを行いました。

希望者には、ボランティアガイドが植物や岩の由来などを案内し、雄橋では東城高校「東城応援隊」のメンバーが給水所を設け、お茶をふるまいました。

午後には、東城中学校と東城高校の吹奏楽部の演奏を聞きながら、鮎の塩焼きやトマトとキュウリの丸かじりなど地元の味を楽しみ、帝釈峡の魅力を満喫できた一日となりました。

▲参加者は清流沿いのウォーキングを楽しんだ

飛び交うホタルに感動

ホタルの会・7/16　No.7

高野町下門田地区のホタル生息地で、シモタカフェ夏イベント「ホタルの会」が開催されました。

下門田の馬舩博（まぶねひろし）さんが「高野の子どもたちに自然の中でたくさん飛び交うホタルを見てほしい」との思いで始めた毎年恒例の会を、今回は下高自治振興区主催で開催しました。37 人の親子連れなどが参加し、バーベキューやそうめん流しを楽しんだ後、ホタルを観賞しました。日が暮れ川沿いにホタルが飛び交うと、一斉に瞬く幻想的な光に子どもたちの歓声が上がっていました。

参加した高野小学校５年生藤原春香（ふじわらはるか）さんは「光り方の違うゲンジボタルとヒメボタルの２種類を一度に見ることができ、感動しました」と話していました。

▲バーベキュー・そうめん流しを楽しむ子どもたち

「住宅デー」で修繕ボランティア

広島県建設労働組合が奉仕活動・6/25 ～ 26　No.8

全国統一「住宅デー」の６月25 日を中心に、市内各地で建設労働組合による奉仕活動が行われました。

この活動は、同組合第12 地域連合庄原が組合員の仕事や技術を知ってもらい、地域の安全・安心に貢献しようと取り組むもので、本年は６月25 日から26 日にかけて、庄原・西城・東城・口和・高野地域で、組合員51 人が保育所・一人暮らしの高齢者宅などの修繕や桜の木の剪定作業を行いました。

13 人の組合員が訪れた敷信みのり保育所では、デッキの塗装や乳児室の格子仕切り、収納棚、おむつ交換台などを作製。同保育所の加藤智英（ちえ）所長は「収納棚を作ってもらい、子どもたちが棚から物を出したら収める習慣がつく。大変にありがたい」と喜んでいました。

▲敷信みのり保育所で収納棚などを作る建労組合員の皆さん